

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	野崎光弘	生徒指導主事	上田屋陽子
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『係活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力	2	主体性・積極性	1	自己理解・自らの自信	3

取組のねらい

係活動を行うにあたり、1年間の児童の成長を見越して、計画的、段階的に目標や活動内容を変え、上記の資質・能力を着実に付けることをねらいとした。

取組の具体的内容

取組の創意工夫
『キーワード 児童の意識』

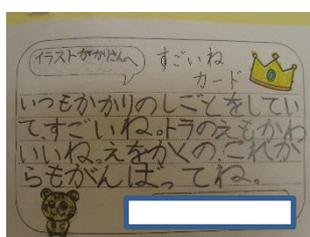
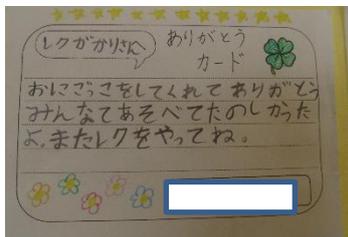
ひとり一役係活動の取組（第2学年団）

- ① 当番活動の徹底（1学期）
一人一役を担当し、責任をもって役割を果たすことに重点を置いた。「学級に必要な当番活動」黒板けし当番、窓開け当番、健康観察簿当番、手紙等
- ② 係活動の導入（2学期）
当番活動が軌道に乗ってから、係活動を導入した。4～5人のグループで、アイデアを出し合いながら、工夫して活動した。「あると学級がもっと仲良く、もっと楽しくなる係」お誕生日係、お笑い係、レク係、イラスト係等
- ③ いいところ見つけ（係活動が充実してから）
活躍している係に「すごいねカード」や「ありがとうカード」を書いて渡した。教室内に張り出し、みんなで見合うことで、リフレクションし、自分たちの力で取り組めた充実感を実感できた。

「よし、新しいクラスのために」
責任感や自信を付けさせる1学期

「もっと、みんなのために」
みんなと協力して主体的に活動する2学期

「そして、自分のために」
自分の価値に気付き自信を深める3学期



取組の成果と課題

成果：アンケートの結果より「係活動によってクラスが仲良くなったと思う。97%」、「自分には、いいところがあると思う。97%」等、ほとんどの児童が、友だちのことを考えて行動できるようになったり、友だちから頑張りを認めてもらえることで自己肯定感が高まったりした。

課題：活動がうまくいっていない時に、教師が介入するタイミングに迷うことがあった。主体性を伸ばすために、ある程度は児童に任せるべきだが、ゴールイメージは明確にもつようにしたい。